

制振鋼板ラウンドロビンテスト結果について

—— 中間報告 ——

計測・評価技術分科会

制振鋼板WG主査：井上 茂

1. 目的

制振鋼板の試験を実施し、各試験機関で測定した損失係数や共振周波数データのバラツキの有無やバラツキがある場合にはその原因等について検討する。

2. 試験内容

試験は、以下に示す試験内容とした。

(1)試験片

- ① 寸法, 形状 (長さ190, 250, 300mm, 厚さ0.8×0.8の短冊型,
試験は、このうちの2種類を使用して実施する)
- ② 試験片の種類 (常温用, 中温用の2種類)
- ③ 試験片は、①が(2種類)×②が(2種類)の計4本とする。

(2)試験条件

- ① 試験温度 (25℃と60℃で、25℃の試験を最初に実施し、その後、60℃での試験を実施する)
- ② 片持はり法の場合は、試験片のクランプ部の長さを40mmとする。

3. 試験結果

制振鋼板の試験に参加した機関は45機関であり、このなかで試験実施機関は42機関である。

試験実施機関をみると、試験方法は次の6種類に分類でき、試験機関の中には2種類以上の試験方法で測定したところもある。

- ①上部一端固定 (19機関)
- ②横部一端固定 (4機関)
- ③両端自由上面中央加振 (5機関)
- ④両端自由下面中央加振 (18機関)
- ⑤両端自由2本吊り (8機関)
- ⑥両端自由2点支持 (2機関)

したがって、試験方法で分類すると合計56試験法の測定データを得ることができた。

以下に示す円グラフは、この56データを100%として作図したものである。